

「コロナ」を越えて 新たな前進を！

会長 鈴木 精成

依然として続く「新型コロナウイルス」との攻防の日々ですが千代田の皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

流統、千代田そして区連関係の全ての大会、行事が中止・延期となり、身近な教場活動までその機会を失ってきた令和二年のこれまででした。

特に、四月十五日の私達の年一回の「昇伝審査会」が実施出来なかったのは残念の極みです。

平素の吟詠活動の成果を試す唯一の機会です。

これは是非、年内実施を実現いたします。

七月になって制約された条件のもとですが、各教場の活動も再開されてきています。特に、これまで新宿に拠点を置いてきた十一教場がそれぞれ新しい拠点を設けて活動を開始しようと動き始めたのは心強い限りです。

先程申し述べました「昇伝審査」については、教場活動と連動した形で多少変則的なやり方になります。機会をとらえながら実施する方式で進め、十月までには全教場が終了するようにしたいと思えます。既に、数教場で終えられていることは嬉しい限りです。それぞれの会員皆様がおかれた条件のもとで審査に取り組んで下さい。

未曾有の「コロナ災禍」は私たちに「新しい研修様式」の模索を示唆してくれています。

教場長宅での分散研修、ZOOM等のWeb方式の研修などに取り組んでいる教場があり、会場難の克服に効果をあげています。勿論右のやり方が全ての教場、会員に利用できるわけでもありませんので、それぞれの条件のもと、お互いの知恵と情報の出し合いが大切でしょう。

これからの教場再開後の活動では、今後の長い「ウイズコロナ」の活動心得として下記のような申し合わせが、ある教場で行われています。

(参考までに)

一、出席者全員の予めの検温

二、マスク着用

三、吟ずる時のフェイスシールド利用

四、三人用机へ二人掛け

五、消毒液配置（手消毒）と机の消毒励行

長い自粛生活のなかから、私達はこれまで意識せずにいた色々な事柄に気付かされてきました。家族のことはもとよりですが、吟友との連携の大切さです。いつも通りの教場が開かれない、吟友との交流も吟楽も遠ざかってしまった寂しさは言うに及ばないことです。それを救うものとして、電話、メールでの情報交換、はたまたオンラインの積極活用も行われてきました。この体験は苦いことかもしれませんが、私達に「危機」におかれた時の知恵出しの可能性を教えてくれていたと思えます。コロナごときに負けてなるかです。ただし「コロナ」の怖さは十分に認識しましょう。

今年、残念ながら「ブロック温習会」も実施不可能の見通しですが、来年令和三年には「千代田岳精会創立三十五周年」の記念の年を迎えます。千代田の新しい教場体制、ブロック体制を一層強力に推し進めながら記念の大会が開催できるよう、みんなで頑張りましょう。

「朝の来ない夜はない！」（吉川英治）です。



岳精流日本吟院

ちよあ

第 65 号

令和 2 年 8 月

千代田岳精会弘報

令和二年岳精流指標

はくくむ
育

千代田岳精会人事（五月一日付）

◇顧問 菅原 精純
（副会長）

菊地 龍駿

萩原 龍晴
（副会長）

◇副会長

（ハザマ支部教場長）

◇東陽町ブロック長

宮野 幸山

（東陽町支部教場長）

◇中央ブロック長

池田 龍康

（神田教場）

◇丸の内副ブロック長

菟場 一風

（丸の内支部教場長）

同

笠 泰山

（桜ヶ丘教場長）

◇東陽町副ブロック長

勝村 忠風

（神楽坂教場長）

◇中央副ブロック長

細川 修山

（清水教場長）

同

堀内 和泉

（新陵教場長）

◇永山教場長

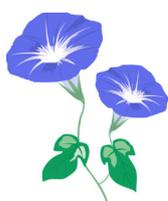
藤村 恵山

◇東陽町支部教場副教場長

片山 寿風

◇吟楽部門リーダー

菟場 一風



千代田岳精会永山教場開設

教場長 藤村 恵山

この度、桜ヶ丘教場の笠教場長の後押しもあり、姉妹教場として、令和二年四月に千代田岳精会永山教場を開設させて頂きました。

開設と同時に新型コロナウイルスで自粛となり、七月から教室研修を再開することが出来ました。開設前は永山教室として、市の広報を利用し、見学者を募り、千代田の先生方に永山まで足を運んでいただき吟指導をして戴いたり、近隣の吟友の応援もあつて心強く、千代田のスローガン「35」に一歩でも近づけたらと思いい決心しました。

まだまだ吟指導力不足ですが、明るく楽しい教場・行くのが楽しみ・継続は力なり、を目標していきたいと思います。

幸い地域柄詩吟に興味を持っている方が居ると思しますので、教場の皆さんで吟友呼びかけをしたいと思えます。何卒ご支援、ご指導宜しくお願ひします。

吟楽部門を拝命

リーダー 菟場 一風

この度、石田匠風さんの後任として吟楽部門リーダーを拝命いたしました。三月から始まったコロナ禍による自粛で詩吟活動停止が続き、やっと動き出したかと思えば、第二波襲来、先の見えない状態が続いております。

吟楽部門の行事として行っていた吟行会も例

年実施されておりましたが、今年中止させて頂きたいと思えます。今後についてはアンケート等を行い、皆様の意見を参考にして計画、実施したいと考えております。その節はご協力の程よろしくお願ひいたします。

千代田岳精会の益々の発展と吟友の皆様との親睦を第一と考え、微力ながら頑張つていきたいと思ひます。ご指導、ご支援の程宜しくお願ひ致します。

令和三年度昇伝審査指定吟題

初伝 黄鶴樓にて孟浩然の 李白

広陵に之くを送る

平泉懐古 大槻磐溪

中伝 七歩の詩 曹 植

訣 別 梅田雲浜

短歌（自由選題、教本の中から選ぶ）

A、B、C型のどれでもよい

奥伝 山行 杜 牧

常盤孤を抱くの図に題す 梁川星巖

俳句（自由選題、教本の中から選ぶ）

皆伝 雨二モ負ケズ 宮沢賢治

筑前城下の作 広瀬淡窓

短歌・俳句の吟題は自由選題であるが、指定吟題は別途通知

新しい転換の時を迎えて

「新型コロナウイルス」が世界中に蔓延し、有効な治療法やワクチンの開発がまだ無い今日、感染防止の方策は「三密」を避けるしかなく、詩吟は行事も教室も出来ない状態で五か月になりました。

加えて、明治安田生命新宿ビルが再開発計画で取り壊しが決まり、千代田岳精会は新しい拠点での取り組みをスタートさせました。

直面した難問にどう取り組んでいくか、副会長・ブロック長・教場長さんに伺いました。

教場長の責務に思う

副会長 徳本 龍治

収まらないコロナ禍の下、吟詠習得の場である教場の会場設定・確保、吟詠指導と会の組織活動の要としての役割等、大変な重責を担う教場長の皆さん、本当にご苦労様です。

千代田岳精会には組織運営上いろんな部署があり、それぞれ規約に決められた活動を展開していますが、教場長の位置づけと役割を決めた規定はありません。今日の千代田の発展は、先輩教場長から引き継いだ申し送りを新教場長が自覚し、それなりに責務を果たしてきた結果だと思えます。この素晴らしい伝統は千代田の宝でしょう。

しかし、この素晴らしい伝統もウイズコロナの時代を迎えて、教場長の責務について皆で知恵を

絞り、新しい教場長像の規約を考える時が来たように思いますが如何でしょうか。この厳しい時代下、教場長の皆さんに感謝して筆をおきます。

ハザマ支部教場報告

教場長 萩原 龍晴

千代田岳精会の新宿MYビルからの転出話が始まった当時から、我々は「ハザマ本社社友会室にお世話に」と決めて、本社総務部や社友会との折衝を重ねて来ました。

あまりにも予期せぬ新宿早期撤退とコロナウイルス問題で交渉は難航しましたが、騒音に対するの防音対策、コロナには三密対策、備品の調達等の諸問題を何とか解決し、七月十一日、教場が四か月振りに十六名の参加で会社の立ち合いを受けて再開にこぎ着けることが出来ました。

なお今回の折衝に対して、元ハザマ総務部長の三島寿山様には特別なご尽力を頂き誠に有難うございました。

先行きまだまだ不透明な流れですが、新生活様式で家主に迷惑をかけないように、また会員同士も健康に留意して、元氣な教場でありたいと思っています。

・教場所在地 港区赤坂六―一―二〇

安藤ハザマ本社B1階 ハザマ社友会室

事務局 安藤ハザマ総務部内

☎ 〇三―六二三四―三六一一

・開催日 毎月第一・二・四土曜日

十一時～十三時三〇分

・交通アクセス 地下鉄千代田線「赤坂」下車
6番または5b出口より地下一階入り口直通

コロナ拡散時の取り組み①

副会長 太田 精翠

千代田岳精会では明治安田生命新宿ビル使用不可とコロナ禍で大変な時期を迎えました。

★丸の内ブロック

山口先生及び丸の内各教場長の皆様八名でLINEグループを作り、連絡を取り合っておりま
す。将来的にはZOOM会議、研修など出来ることを目指しています。

★草加教場

千代田初のエリア教室として平成十三年スタートし現在は第二木曜に金町集会所で、第四木曜に草加アコス会議室で開いています。どちらの会場も広々として扉、窓も何か所も開放でき、消毒、マスク、フェイスシールド等コロナ対策を万全にとり、七月から再開しています。三月～六月の休止期間は資料の郵送、メール、LINEで連絡していました。皆様お元気で出席頂きホッとします。

★千吟会

残念ながら会場都合で暫くは大きな声を出してはいけないとのこと、コロナが収まり皆様と楽しく吟じられる日を願っております。

私は本部ホームページ、千代田ホームページを度々開いております。宗家の「**今月のことば**」、千代田のお知らせ等、皆様に連絡しております。

こんな大変な世の中こそ発想の転換、色々な工夫で乗り切りましょう。
フレーフレー 千代田！



カンチェンジュンガ
〈ネパール〉
星野久風（清水）

コロナ拡散時の取り組み②

副会長 花山 精櫻

吟があつて行く所があり、仲間が居る。

今まで当たり前だったことが何と有難いことだったか！ 今どうでしょう？ そんな折しも、先日ZOOM研修会に参加させて頂き、久しぶりに何人かの顔と声に出会った時、懐かしさと嬉しさがこみ上げてきました。ただZOOMの時の伴奏は自分で用意？また自宅では大声は出せない等のハードルもあります。…が、まだまだ全部の教場が集まって吟の練習は難しいと思います。機会を見つけてZOOM研修に参加してみませんか？ それとコンダクターも自分で弾いて自分で吟ずる練習も致しましょう。

これからの吟の勉強方法の多面性を前向きに考えて、それぞれ自分に出来る方法でコロナの時を乗り越えていきましょう。ZOOM研修も回を重ねるうちに確実に上達しているように思います。

コロナ拡散時の取り組み③

丸の内支部教場長 菟場 一風

「新型コロナウイルス」の影響で日常の生活が一変し、自粛と我慢の生活となっております。

我が丸の内支部教場もコロナ禍と明治安田生命新宿ビルの再開発計画が重なり、新教場の決定に苦慮しております。今までは何の心配もなく、教場が使用できたことに明治安田生命様に感謝

の気持ちで一杯です。

先般、七月十六日に教場を「新宿文化センター」で再開することが出来ました。今後は八月、九月、十月と同センターを予定しておりますが、何分、先着順申し込みとのことと不安定な状況を迎えております。

会員との連絡を密にするため、本部・千代田からの連絡事項を伝えながらLINE、メール、郵便等でお互いの連絡を取り合っております。まだまだ終息の見えないコロナ禍ですが、この時こそ我が流統の「真・善・美」の精神と「礼と節」を忘れることなく頑張りたいと思います。皆様のご指導、ご支援の程宜しく願います。

新しい会場に移って

清水教場長 細川 修山

新しい会場は中野区桃園区民センター（中野教場が既に使用している会場）です。

- ・所在地 中野区中央四丁目五七一
- ・開催日 第二・三・四土曜日 午後一時～
- ・アクセス JR中野駅南口徒歩十分

三月から六月までの四か月間は「新型コロナウイルス」の影響で吟詠の勉強は自粛しました。七月からはコロナ対策を実施しながら、村上顧問・徳本教場顧問のご指導の下で、吟詠の勉強を始めています。

これからも先輩方の教えを伝導伝達し、吟力の向上に努め、楽しく学べる教場でありたいと願っています。

用賀教場について

教場長 松本 篤山

- 一、三月以降教室としての取り組み
 - (イ) 岳精流日本吟院及び千代田岳精会からの会報や連絡資料の郵送配布や電話による相談
 - (ロ) 千代田ホームページの自習勉強用ページの範吟コピーとユーチューブをカセットで録音して会員の皆様に郵送配布をしました。
 - (ハ) 六月十九日に久しぶりに集合して区民センターと相談、今後のやり方について会員で相談しました。
- その後は、
- (A) 当日の体温測定と体調管理
 - (B) マスクとフェイスシールド使用
 - (C) 窓開けをした状態でエアコンを入れて勉強する。
 - (D) 三密を避けるため用賀教室会員のみで開催する。
- 二、これからの取り組み
- (イ) 昇伝審査の準備を行う。
 - (ロ) 四月より始まったZOOM研修を教場としても活用する。
 - (ハ) 広報「はたがや」を利用して、会員増活動を行う。



熊谷教場について

熊谷教場長 小林 明風

- 熊谷教場はこれまで通り、
- 一、熊谷市荒川公民館でマスク着用、消毒を徹底的に行い、三密に気を付けていきます。
 - 二、十月四日、熊谷勤労会館において熊谷詩吟連盟の大会を予定されておりますが、これに向かつて全員で勉強しております。

従来会場で再開

中野教場長 三好 弘山

教場は中野区運営施設のため、使用許可に極めて慎重で三月初めから六月中頃まで閉鎖してまいりました。再開後は歌自粛のルールの下、ご多分に漏れずマスク着用、換気励行のうへ合吟自粛で使用拒否を避けるべく、小さくなりながらの研習実施中です。特に入室の人数制限は厳しく、毎回記名にて報告義務を課せられており、あまつさえ新定員は通常定員の半分なので、コロナ由来の休会、欠席者が出る中でも、現メンバーで定員ギリギリの状態であり、会員増活動は中止の予定です。

家族からも参加自粛要望がかましい四面楚歌の状況の中では、現状の教場維持が精一杯のようです。

教場後の反省飲み会も自粛、寂しい限りです。コロナ騒ぎが一日も早く終息するのを祈るばかりです。

桜ヶ丘教場について

桜ヶ丘教場長 笠 泰山

ダメだ・ダメだ、で半年経過…この四月に永山教場が独立したものの既にコロナの真つ只中で、開設祝いもしてあげられずの今日です。

三月終わりのこと、市に届けて公園練習をしました。青空の下で気持ちスツキリでしたがこれも一回きりでオジャンでした。

折からWeb研修が話題となり、IT音痴ながらみんなのためにとZOOMの勉強。近い将来、詩吟の世界にもIT活用手法が導入されるなど実感。みんなにも食わず嫌いは勿体ないよと伝えているところです。

当教場は恵まれています。都心から離れ、会場の使用制限はあるものの独吟OK、七月より練習を開始しています。気を遣うことなく、皆さんで元気な大きい声で、存分の吟詠が出来る日が一日も早く来てくれますよう。

日暮里教場について

日暮里教場長 吉田 紀山

荒川区に拠点を置く当教場は公共施設「ひろば館」を利用。コロナ禍は前代未聞の展開を呈し、自粛を余儀なくされたことは言うまでもない。

三月～六月は当然ながら全面利用停止。それでも、いつ再開してもよいようにと担当者は月二回の予約を継続実行、予約してはキャンセルと変更の繰り返しが続いた。七月に入り第一回目は会議

名目で、二回目からやっと吟詠可能となり本来の教室運営に戻る。施設利用に関して会場予約の混乱は一切なく、立ち上げの功労者本多里風前教場長に感謝している。

最近では嬉しいことに山口昭泉氏が一年振りの復会に意欲を見せている。会員募集は常に念頭にあり、荒川区報にも時おり掲載を依頼、併せて今後も一貫して会員の心身の健康に寄り添い活動する所存である。

みなとみらい教場

教場長 田川 行泉

昇伝審査会実施報告のとおりです。

従来の会場で再開した教場

志茂教場長 小林 公風

コロナウイルス拡大により二月十八日以来、公共施設使用が不可能、四か月ものブランク。

教場の皆さんから顔合わせ、ミーティングだけでも教室を開催して欲しいということで、七月施設にお願いしたところ、詩吟・コーラスは許可が出ていると断られ、広いホールで十分三密を避けるミーティングということで一回目開催、小聲で吟じ祖宗範の「真善美」について中屋明泉さんの講義。素晴らしいの一言、例年にない勉強会でした。二回目、平井神田教場長から詩歌研修会的な講義。言われていたことをうっかり不注意にも声を出して吟じてしまい、施設からお叱りを受け

反省。今後、通常に使用できるまで思案の所です。詩吟、吟友に感謝、教室の皆さんとも今迄より一層詩吟が好きになり頑張っています。

都心部を離れての教場

我孫子教場長 石田 匠風

コロナ感染防止の外出自粛が早くも五か月経過、不要不急の名目にての外出不可。

我々の教室は高齢者のみでありウイルスの性質上感染しやすいとの状況にあり会員の皆さんに迷惑をお掛けするわけにいかず、人との接触を極力控えて忍の一字にて我慢をする毎日です。人間は離合集散の生活習慣を維持しながら生きています。このような中である部分競争の原理が働き生態系が維持されてきました。

今度のコロナウイルスは一樣でなく、我々高齢者は住みにくい環境となってきました。吟友と共に今まで生活の中に組み入れた活動サイクルが不順となり、健全な生活が出来なくなり、健康維持が困難となり、現在は個の体調を大切に以前の環境回復を願うのみであります。

コロナ禍での教場活動

金町教場長 中内 博風

令和元年八月一日、金町教場を会員四名でスタート、以後会員の増減はありましたが、七月現在五名で草加教場と連携をとりつつ、JR金町駅近くのUR集会場で吟を楽しんでいます。

コロナ禍の中、当教場は会員の安全を考えこの三月よりコロナがある程度収まった後の六月までの四か月間活動は中止とした。この間会員の皆様には資料の送付、或いは電話、LINEによるお知らせをしながら親睦を図っていた。なお会費のうち教場費は活動中止期間、教場長判断で無徴収とした。

七月に入り教場を再開、幸いにも会場であるUR集会所はコロナ対策の三密(密接、密閉、密集)回避が十分にとれる場所であったことは幸運であった。教室開催日は会場の窓開け、机・椅子の消毒は勿論、出席者全員に手指の消毒、フェイスシールドの着用をしてもらい、ソーシャルディスタンスをとり感染防止に努めた。

まだまだコロナは終息の見通しが立たない現状、かといって教場活動は行っていかなければならない。コロナに打ち勝つ、をモットーに感染防止を図りながら明るく楽しい教場を目指して活動していきたいと思っている。

神田教場のこと

教場長 平井 武山

一、教室 市川教育会館

・市川市南八幡一―十一十九

・開催日時 毎月、月曜日三回

十三時四五分―十五時四五分

・アクセス JR総武線「本八幡」南口から徒歩

約六分

二、三月―五月、月曜日三回の教場開催を予定す

るもコロナ感染防止のため中止。空白の三か月間、各人の自習に任せた。ホームページ、Web研修を利用された人、詩吟から遠ざかった人等、さまざま…。

三、新会場に恵まれ、六月から順当に開催でき、独吟、合吟とも出来るのは非常にありがたい。

千葉県在住の方が多いので地域密着型教場として近辺の新人の勧誘に努める。勉強内容は従来と同じか基本の反復、更に密度を高めていく。師範の先生方が多いので一人の先生を中心とした集団指導体制でいく、師範の先生の存在価値も高まると考えます。

コロナ禍中の教場

新陵教場副教場長 西川 清悟

新陵教場では、新たな練習拠点を「新宿文化センター」とすべく会場確保に努めているが、時節柄いまだ使用実績はない。

三月からは、千代田ホームページの積極活用を会員に呼びかけてきた。タイムリーな「自習用カリキュラム」の配信を受け、それを最大限利用させていただいている。

四月末に本部でZOOMを利用した研修が行われたのを契機にZOOMを新陵でも、との機運が急速に高まり、有志による試行期間を経て六月には実施への確信を得た。そして、全会員参加を目標に個別支援も行いながら、七月からのZOOM教室開催にこぎつけた。ZOOM研修には音声の途切れやタイムラグの発生と言った限界もあ

るが、何よりもコロナ禍の下で全員の元気な顔を見ながら学習できるという大きなメリットがある。皆さん何時かは復活するであろう研修終了後の『一杯』を心待ちにしながら、吟詠力向上に励んでいる。

逗葉教場

教場長 神谷 知山

逗葉教場がある「葉桜会館」が三月より全館閉館となった。七月に一部のサークルの活動が認められ、逗葉教室は四名と少人数のため活動を再開しております。しかし、五く六名を超える歌唱サークルは未だ活動を認められていないのが現状です。

神奈川県感染者数も増加傾向にあり、今後再開鎖もあり得るため、各種模範吟のテープによる独習とオンラインレッスンの早期実現を目指したいと思います。

生田教場

教場長 井田 舜山

一、稽古自粛状態が始まった三月以降、当教場に於いては、これと言った取組み活動は一切行っておりません。ただ会員の皆様には家庭内で出来る素読・発声の練習は毎日欠かさない様にお願いをしておきました。

二、教場は変わっておりませんが、ハザマ支部教場の場所、開催日変更に伴って稽古日を毎月、

第二・第四金曜日から第二・第四火曜日開催となりました。時間は変わらず、十四時三〇分〜一七時です。

三、これからの教室としての取組み

既に七月から稽古を再開しております。これからも敢えて特別に取組みは考えておりません。今迄同様に会員相互が、詩吟が上手いとか下手ではなく詩吟は楽しいと思えるように、雰囲気造りをしていきたいと思っております。

鎌ヶ谷教場

教場長 植村 龍翔

三月〜五月使用禁止となり、六月から従来の会場で再開いたしました。

入場の際にマスク、アルコール消毒、検温を行います。そして三密を避けることが重要です、当教場は人数が少ないので充分に間隔が開けられます。

新型コロナは長期化様相でこの五か月間感染拡大のニュースで明け暮れています。一番の問題は医療崩壊の危機に瀕していることです。教場は今迄と変わりなく開催しますが、コロナの終息を願うばかりです。

負けずに頑張りましょう！



コロナと教場運営

東陽町支部教場長 宮野幸山

コロナ感染者数が増加傾向となり、政府が不要不急の外出自粛を求め始めた時は今まで教室に使用させて頂いていた明治安田生命新宿ビルを退去する時と同時期でした。それから三月・四月と教室も開講できず新たな道を模索してまいりました。

丁度その時、脇阪さんがZOOMと言う新しい人数による会議システムを探し、これを詩吟に活用してはどうかと提案がありました。そこから一瀉千里、素晴らしさに取り付かれ、これは凄い新兵器だということで瞬く間に教場として五月から活用してきました。今では毎週2回の稽古を楽しんでおり、愛されるZOOM教場へと成長しています。

コロナのお陰で素晴らしいZOOMに出会いました。



<夏の八ヶ岳>

本年度の許証部の活動

許証部門リーダー 宮野幸山

四月十五日に予定していた春の昇伝審査会はコロナウイルス感染防止の立場から延期となりました。現在、十月十五日を目指して各教場別の審査会を教場の日程に合わせて実施しております。

異常事態に対処するため、審査方法も対面式から録音テープ方式まで採用して、不自由な環境の中で審査に対応して頂いております会員の皆様に心から感謝申し上げます。

また十一月三日には奥伝以上、準師範以上の審査会も予定されています。

コロナの猛威が収束し安心安全な会場で落ち着いた審査が出来ますことを心から祈っております。

へこたれずに頑張りました

剣詩舞研修リーダー 松尾 瑞風

剣詩舞研修は、五か月振りに七月二十五日、ハマ支部教場の新会場、国際新赤坂ビル西館B1階「安藤ハザマ本社社友会室」をお借り出来ることとなり、活動再開を果たしました。勿論、手の消毒、検温、マスク、フェイスシールド、換気等の三密対策を施しています。

八月に入り新型コロナウイルス感染拡大が続き、開催は

見通せない状態ですが、予定として開催日時は毎月第二・第四土曜日、十四時三〇分〜十六時三〇分。アクセスは地下鉄千代田線「赤坂」下車5Bまたは6番出口直結です。

新型コロナウイルスの第二波が押し寄せる中、我々の手には未だ有効な武器がないのが現状でしょう。しかし人類はこれまでも見えない敵と何度も勝ち抜いてきた歴史があります。「窮すれば則ち変ず、変ずれば則ち通ず」（易経）という名言があります。この受難の時に雌伏して怠りなく過ごせば、必ずや情勢の変化に応じて新しい展望を開くことが出来るに違いありません。

一人ひとりが感染に充分警戒しながら、無理のない活動をへこたれず続けていきましょう。

漢詩研修

漢詩研修リーダー 犬飼 堯風

新型コロナウイルス禍で会場探しは困難を極めました。が、賃借料高額の都内ではなく岳精流総本部の一室をお借りすることが出来ました。

四月〜六月と教室は安全を優先して休講、八月も第二波流行を受けて再び休講のやむなきに至っております。

その間、ハイテクのテレワークではなく、ローテクの手書きの詩稿を先生に郵送、若しくはファックスして添削を受けるといった方法を探らざるを得ませんでした。先生からの直接言葉での指導を得られず、物足りない思いを抱いたと思いま

す。

今後コロナ禍終息の一助にならんと、むやみに恐れることなく三密防止、手洗い、うがいの励行を徹底し、十月からの教室再開を目指す所存です。この上は詩吟教室をはじめ、各部のご活躍を祈念致します。

詩歌研修会

閉会のお知らせ

詩歌研修会 平井 武山

令和二年五月末日を持ちまして残念ながら、当会は閉会とさせて頂きました。平成十五年四月に諸先輩が情熱を傾けて立上げてくださり、十八年もの間、一生懸命活動して参りました。その間の講師の皆様、参加者の皆様、応援して下さいました様に厚く御礼申し上げます。

特に、いつもコンダクター伴奏して下さい、会の最後を含蓄のあるお言葉で締めてくださいました磯田精信大先生、創立時から最後までリーダーとして我々運営委員を引っ張ってくださいました渋谷龍報先生のお二人のご尽力には感謝の言葉もありません。

閉会の理由は、一言で言えば、それなりに役目を果たし終えたということになると思います。また、ごく少数人数でも詩歌の歴史を深く調べる意欲を持った方々が再興して下さることを願っております。



昇伝審査会

毎年、桜の季節に開催される六段以下の昇伝審査会、今年はこの十余年開催されていた原宿の東郷神社・水交会が改装工事のため休館となり、許証部門では明治安田生命新宿ビルで四月十五日の平日に実施予定で、審査員は横山精真宗家、前澤精淳副幹事長、小林精眺先生、各教場も準備は全て整っていました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で活動は自粛、本部関連行事の殆ど全てが中止または延期となりました。

この度、総本部の指示で千代田所属の指導本部員の審査で実施となり鈴木会長、岩崎顧問のお二人で教場毎に審査会を十月末までに実施することになりました。教場の諸条件に合わせ実施されます。

今回の受審申込者数は、二十八教場・一八四名となりました。内訳は左記の通りです。

- ・丸の内支部 十二名
- ・草加 一名
- ・金町 二名
- ・日暮里 七名
- ・鎌倉 五名
- ・桜ヶ丘 八名
- ・永山 四名
- ・清流 八名
- ・東陽町支部 十四名
- ・銀座 一名

- ・熊谷 四名
- ・神楽坂 十二名
- ・調布 五名
- ・鎌ヶ谷 二名
- ・清水 六名
- ・中野 五名
- ・逗葉 三名
- ・石神井 三名
- ・神田 五名
- ・用賀 五名
- ・志茂 三名
- ・ハザマ支部 十一名
- ・新陵 十三名
- ・みなとみらい 十九名
- ・生田 五名
- ・新宿支部 九名
- ・新宿第二 三名
- ・新宿第三 六名
- ・新宿第四 四名

受審伝位をみると、

- ◎六段 十三名 ◎五段 十八名
- ◎中伝 二十八名 ◎四段 二十二名
- ◎三段 二十三名 ◎初伝 十八名
- ◎二段 十八名 ◎初段 十九名
- ◎級 二十六名

入会六年から八年の初伝以上の会員層が厚く、昨年入会の初受審者が多いという特色がみられ、今後は楽しみな構成となっています。

昇伝審査会が無事終了しました

みなとみらい教場長 田川 行泉

新型コロナウイルスの影響で二月後半から使用できなかった教場は、マンション理事会からの連絡があり、会場のフォレストホールが六月中旬以降、約五〇名収容の大きな部屋でも一〇名迄という条件付きながら使用許可となり、会員各位の意見から、部屋を四時間確保して二班編成で、各班一時間半の割り当て、マスクの着用、消毒や机の配置、交代時間等の確保ができ、全員で安全な運営が可能と考えて教場の開催を決意しました。

六月は二十日・二十七日の二回開催し、七月は十一日・十八日を予定しましたが、鈴木会長から十八日に昇伝審査会を開催しようとのご提案を受け、当日は各班とも前半は予定の吟題、後半は昇伝審査を開催することになりました。

わが教場は二十一名在籍、受審者は十八名でしたが、一班あたりの受審者はその半数になり、各人ゆつたりと吟じ、先生からも懇切なコメントを頂けて、充実した審査会になったと思います。

一班の女性軍は、二班の審査の様子を人数制限を守って廊下から見学参加するなど、一体感のあるかつ熱心なところを見せられました。色々制約があり心配しましたが、無事終了してほっとしております。



みなとみらい教場<昇伝審査会>

日本吟剣詩舞振興会 吟詠コンクール

春の恒例行事「吟詠コンクール」が二月十一日の港区に八十六名、三月二十日の品川区に四十名が出場申し込みをしました。

二月十一日の港区は予定通りに開催され、下記の四十二名が入賞を果たされ都大会出場権を獲得されたが、その後「新型コロナウイルス」の感

染拡大で品川区は中止となり、参加申し込み団体に人数比率で都大会出場者を推薦する形で後記の方々が出場予定となりました。しかし、その後行事は全て禁止・自粛となり、都大会も中止となりました。港区の本年度都大会出場資格は来年に繰り越されます。

港区

◇一般一部 二位 大森 美泉 (桜ヶ丘)
 ◇一般二部 三位 脇阪 緑泉 (東陽町)
 四位 岩崎 友泉 (新 陵)
 五位 能島 伸夫 (新 陵)
 六位 土居 佳泉 (東陽町)
 八位 吉原 雅巳 (東陽町)
 十一位 辻 敏子 (調 布)

◇一般三部 優勝 犬飼 勇風 (ハザマ)
 三位 宮野 幸山 (東陽町)
 四位 下條 信山 (丸の内)
 五位 西川 清悟 (新 陵)
 七位 田村 璃風 (東陽町)
 八位 関根 紀泉 (生 田)
 九位 小梶 清泉 (新 陵)
 十位 小浦場伯山 (ハザマ)
 十一位 和田 之泉 (新 陵)
 十二位 片山 寿風 (東陽町)
 十三位 鎌田 秋山 (丸の内)
 十四位 伊藤 彰一 (東陽町)

十七位	柴田 豊泉	(新 陵)
十八位	松尾 瑞風	(ハザマ)
十九位	中川 寿泉	(みなと)
二十位	金井 俊泉	(清 水)
二三位	二反田奉山	(生 田)
二四位	萩原 龍晴	(ハザマ)
二五位	藤本 紘泉	(東陽町)
二六位	森坂 雄山	(清 水)
二七位	中内 博風	(金 町)
二八位	小蔦 正山	(中 野)
二九位	宮永 明山	(ハザマ)
三一位	井田 舜風	(生 田)
三二位	笠 泰山	(桜ヶ丘)
三三位	塩月 崇山	(調 布)
三四位	加藤 博善	(みなと)
三五位	金城 明泉	(神楽坂)
三六位	青木 青泉	(新 陵)
四一位	平居 敏雄	(東陽町)
四二位	浪久 雅泉	(神楽坂)
四三位		
四四位		
四五位		
四六位		
四七位		

品川区都大会推薦者

◇一般一部(全員)	石井 浩泉	(新 宿)
	青山 昇泉	(新宿二)
	大和田久泉	(新宿二)
◇一般二部	中野 陽風	(新 宿)
	加藤 雅泉	(精 流)
◇一般三部	粕川 紘風	(神 田)
	宮川 丞風	(神 田)
	小林 公風	(志 茂)
	小倉 孝泉	(新 宿)

初入賞者ご感想

岡部 正彦 (新 宿)
 荒井千恵子 (新宿二)
 林 實山 (新宿三)
 井上ユキ子 (新宿四)

詩吟に出会って

東陽町 中西 幸子

詩吟については全く見識のなかった私ですが、以前仕事でお世話になった鶴飼輝風様にお声かけ頂き、昨年入会のはこびとなりました。

少しかじってみて、漢詩を知るのも楽しいものですし自分の声が主人公となることを新鮮に感じます。

今回初めてのコンクール参加、とりあえず入賞とのこと、ご指導・ご支援くださった皆様に感謝申し上げます。

現在コロナ感染の渦中、大人しくしておりますが、また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

港区コンクールに参加して

みなとみらい 加藤 雄泉

令和二年二月十一日に行われました「第四十二回港区吟詠コンクール大会」に参加致しまして感じましたことは、まず己の未熟さでした。次に三

部で優勝されましたハザマ支部教場の犬飼勇風様の素晴らしい吟詠でした。水四本で朗々とした、力強くCD伴奏に合わせた、诗情豊かなメリハリのよく効いた名人芸でした。

入会いたしました満五年になりますが、今後の目標になる吟でした。「声十年、間取り十年、節十年」と言われておりますが、今一度、それぞれの部門で基本に返り、臆下丹田に力を込め、力強い吟を目指して精進して参りたいと思っております。

鈴木会長はじめ諸先生方には、更なるご指導、ご教示を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



岳精流全国独吟コンクール大会

二年毎に開催されている岳精流全国独吟コンクールは、今年三月二十一日開催で全国から一〇一名がエントリーされた。

千代田の大会での役割は集計係を前回に続いて担当することとなり、犬飼堯風事業部門長のもと各教場から強力メンバーが参加してチームが

編成された。出場者は千代田の会員数枠で後記の十名が登録され、課題吟の練習も進められていたが、新型コロナ感染拡大で総本部もギリギリまで開催の手段を探ったが会員の安全確保で苦渋の一年延期となった。

◇一般の部

下條 信山（丸の内） 二反田奉山（生田）
小柴 藤風（新宿）

◇寿栄の部

鎌田 秋山（丸の内） 中内 博風（金町）
宮野 幸山（東陽町） 平居 敏雄（東陽町）
浪久 雅泉（神楽坂） 神谷 知山（逗葉）
長部 君恵（志茂）



【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

中澤 郁子さん（二月入会）

詩吟を習いたいと思っていた中澤さんが、昨年十一月の高校同期会に久し振りに出席の八田龍仁さんの吟詠を聴き、相談の上、年が改まって教室を訪ねました。入会してすぐ新型コロナの感染が蔓延して教室が休みとなり、教室の再開を待ち望んでおられます。

桐生 敏夫氏（三月入会）

明治生命で八田龍仁さんと同じ部署で勤務

していた同僚です。数年前から年賀状に詩吟を勧める一言があり、一緒に楽しみたいと入会されました。習い始めて何も分からないところで教室が休みとなり、外出も自粛、腕を撫した日々が流れています。

北川 昭氏（三月入会）

健康のためにより趣味として詩吟をとインターネットで探し、自宅に近い新宿の千代田岳精会に連絡、入会されました。以前に習われた経験もあり、意欲的に参加されております。

◇金町教場

片桐 節子さん（二月入会）

一月にURの教室を見学して入会しました。詩吟に馴染がありませんが、鞭声肅々は知っていたので軽い気持ちで参加しました。大きな声を出して、ベテランさん達の吟も聴き楽しかったです。高音が出づらしいし、息継ぎも難しいですが続けたいと思います。よろしく願います。

◇ハザマ支部教場（二月入会）

児島 道男氏（一月入会）

児島道男さんはハザマ社友会の「ゴルフの会」「歩こう会」「カラオケの会」にも参加されており、それに加えてこの度「千代田岳精会」に入会されました。九十歳を超えて益々意気盛んで、ご自身のスケジュール表が真っ黒に埋まるくらい元気に活動されています。背筋もピンと伸びておられ、今後のご活躍が期待される方です。

編集後記

中国で発生した「新型コロナウイルス」感染は止まることなく世界に拡大し続けており、人々の活動に大きな変化と制約をもたらしている。

我々詩吟界も全ての活動の自粛という前代未聞の事態を余儀なくされている。

加えて交通至便の新宿西口で長く使用させて頂いていた明治安田生命新宿ビルが再開発計画で五月末閉館された。まず、これまで寛大に使用を認めて下さった明治安田生命のご厚意に深く感謝します。

今日まで半年にわたり、行事・教室全て休止という事態のなか、「ちよだ」の発行を一旦停止しました。七月に入り、活動再開を待ち各教場、自主研修の取り組みについてご寄稿をお願いした。それぞれ厳しい条件に立ち向かい工夫を重ねながら奮闘する姿が滲む内容であった。

詩歌研修が五月末で閉会との報告があった。メンバーが講師となり、漢詩の歴史、詩の解説、作者から、中国・日本・朝鮮半島の歴史まで取り上げるなど大きな実績をのこした。

昇伝審査会実施第一号のみなどみらい教場の報告に明るい灯が見えた思いを深くした。これまでも多くの災害を乗り越えてきた日本人の底力を信じましょう。

弘報部も現況下での編集、発行業務を模索しています。

（八田 龍仁）